令和6年度第1回市川市スポーツ推進審議会 会議録

日時：令和6年11月21日（木） 午後1時15分～午後3時00分

会場 第1庁舎5階 研修室

参加者：委員（出席）： 水野 哲也委員、小幡 晶子委員、伊坪 有紀子委員、
忠岡 信彦委員、山中 英勇委員、猪又 雅広委員、
相田 光康委員、梅澤 和夫委員

事務局：スポーツ部 鎌形部長、中崎次長
スポーツ計画課 櫻井課長、小嶺副参事、金谷主幹、竹上主任、赤間主任、菊地主事
スポーツ推進課 矢澤課長、土屋主幹
スポーツ施設課 佐藤課長

スポーツ計画課 主幹：

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回市川市スポーツ推進審議会を始めさせていただきます。皆様、ご多忙の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

初めに11月1日付けで委員に就任されました、皆様へ委嘱辞令を交付いたします。早速ではございますが、ただいまから、松丸副市長より委嘱辞令を交付させていただきます。お名前をお呼びいたしますので、自席にてご起立くださいますようお願いいたします。

<辞令交付式>

松丸副市長挨拶
各委員挨拶
市職員紹介
スポーツ部長挨拶
資料確認

スポーツ計画課 主幹：

ただいまより令和6年度第1回市川市スポーツ推進審議会を開会いたします。
会議進行に先立ち、会長副会長を選任するまで、議事進行について事務局で進めてよろしいか、お伺いいたします。

<一同異議なし>

スポーツ計画課 主幹：

それでは事務局で議事を進行させていただきます。最初に定足数、会議の公開、傍聴について確認いたします。

それでは定足数の確認をさせていただきます。本日の会議の出席状況ですが、8名の委員の方にご出席いただいております。市川市スポーツ推進審議会条例第6条第2項において、委員の半数以上の出席と定められておりますことから、本日の会議は、定足数に達しております。

次に、本日の審議会の公開非公開の取り扱いについてですが、本日の議題には非公開情報は含まれておりません。しかし、審議会等の会議の公開に関する指針では、公開の扱いとなりますが、本日の会議について公開することとしてよろしいでしょうか。

<一同異議なし>

スポーツ計画課 主幹：

それでは、公開することといたします。

なお、本日傍聴希望の方はいらっしゃっておりません。今後、傍聴希望者が来場した場合は、傍聴を許可いたします。

次第1 議案

議案第1号 会長・副会長の選任について

スポーツ計画課 主幹：

はじめに選出方法でございますが、市川市スポーツ推進審議会条例第五条第1項の通り、会長副会長は委員の互選となっております。

最初に会長の選出から行いたいと思います。自薦他薦の方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

<相田委員より水野委員の推薦あり>

スポーツ計画課 主幹：

ただいま相田委員から東京科学大学水野委員とのご意見いただきました。その他ご意見ありますでしょうか。他にご意見ないようですので、水野委員に会長を引き受けていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

<一同異議なし>

スポーツ計画課 主幹：

それでは水野委員、お引き受けいただけますでしょうか。

<水野委員 承諾>

スポーツ計画課 主幹：

ありがとうございます。それでは、次に副会長の選出を行いたいと思います。自薦他薦の方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

<小幡委員より猪又委員の推薦あり>

スポーツ計画課 主幹：

ありがとうございます。副会長に猪又委員とご意見いただきました。

その他ご意見ありますでしょうか。他にご意見ないようですので猪股委員に副会長を引き受けていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

それでは猪股委員、お引き受けいただけますでしょうか。

<猪又委員 承諾>

スポーツ計画課 主幹：

ありがとうございます。それでは第1号議案、会長副会長の選任については、会長に水野委員、副会長に猪又委員に決定いたしました。

では早速ですが会長会長にお席にご移動いただきまして、就任のご挨拶をいただきたいと思います。ではお席へのご移動をお願いいたします。

<会長、副会長移動および挨拶>

議案第1号 会長・副会長の選任について 承認

スポーツ計画課 主幹：

猪又副会長ありがとうございました。それでは、市川市スポーツ推進審議会条例第6条第1項に基づき、これより会長に議事を進めていただきたいと思います。

水野会長、議事の進行をお願いいたします。

水野委員：

それでは議事を進めていきたいと思えます。

最初は議案第2号ということで、第2期市川市スポーツ推進計画の進捗状況について、まず事務局から説明をお願いしたいと思います。

議案第2号 第2期 市川市スポーツ推進計画の進捗について

スポーツ計画課長：

議案第2号 第2期 市川市スポーツ推進計画の進捗について

(推進計画の目的)

市川市では「健康で、ふれあい生まれるスポーツのまち、市川」を基本理念に、「人づくり・組織づくり・地域づくり」を基本方針としたスポーツの振興を推進するため、平成18年度に、第1期計画となる「市川市スポーツ振興基本計画」を策定し、第1期計画の計画期間が令和4年度で終了することから、これまでのスポーツ施策を継承しつつ、さらなるスポーツの推進を図るため、第2期市川市スポーツ推進計画を策定しました。

第2期計画において令和5年度から令和14年度までの10年間を基本計画期間とし、この基本計画をより推進するための事業期間を令和5年度から7年度までの3年間、8年度から10年度までの3年間、11年度から14年度までの4年間とそれぞれ定めています。各事業はスポーツを「する・みる・ささえる・知る」という4つの基本目標から基本施策として展開したもので、随時進捗を確認しています。

(前回報告内容の説明)

前回の審議会では年度途中だったことから、令和5年度の数値目標は暫定的な数値を確認していただきましたが、確定数値が出そろったため、お示しするものです。

令和5年度の進捗報告として、概ね実績100%を達成している事業が多く見られたのでこれらの事業の内、いくつか説明します。

(No14 スポーツ協定関連事業)

この事業は、各スポーツのトップチームと協定を締結し、相互に連携した事業を推進するものです。

先ほど副市長からもご報告のありました、バスケットボールの千葉ジェッツ、野球の千葉ロッテマリーンズ
の他、ラグビーのクボタスピアーズ、アメリカフットボールのブルーサンダースと、今まで協定を締結していま
したが、今年度、新たに「プリオベッカ浦安」と協定を締結しました。

協定締結の内容としては、市内学校にてイベント等を実施することや本市のイベントに選手派遣をし
ていただく等、サッカーを通じて地域社会の発展及び市民サービスの向上に資することを目的としていま
す。

(N025 北東部スポーツ施設整備事業について)

令和5年度の達成率は33%と低い数値になっていますが、本事業の数値目標は事業費で算出をし
ており、令和5年度の予算額200万に対して実績は66万円でした。

事業の内容としては、令和6年度に北市川運動公園隣接地でバスケットコート等の整備工事を予定
しており、整備地を賃借する準備のため、工作物及び竹木等の移転補償調査を実施しました。

差額が出た理由として、当該地は平成29年に完成したJ:COM北市川スポーツパークを整備する
際、事前に土地調査等を実施しており、今回は再算定となったことから、安価で実施出来たものです。

今年度はバスケットコートの他、スケボーパークの整備にあたることから、約5千万の事業費を予定して
います。

(No31 (仮称) 信篤複合施設整備事業について)

こちらは昨年度の事業では掲載をしておらず、今年度から追加したいと考えている事業です。市川市
では信篤の複合施設の検討を進めており、原木中山駅から徒歩数分の公共施設（体育館、公民
館、こども館等）を一体的に再整備し、複合化することを検討しています。

民間事業者の活力を活用し、整備後は既存の公共施設の機能は残しつつ、収益施設も併用する
予定であり、スポーツ部としては、体育館について、現状の規模を維持する方向で検討に参画をしてい
るところです。

現在、基本計画を検討している段階のため、数値目標等を示す段階にありませんが、今後、基本施
策3-2に定める拠点の拡充に係る事業として追記していきたいと考えるものです。

水野委員：

説明ありがとうございました。委員の方々、ご質問その他、ご意見等ございましたらお願いいたします。

私から、進捗状況なので評価の仕方もあると思うのですが、今言ったように事業費、数値目標も照らした上で、ここで見ると多くのものが100%になってるっていうことは、概ね順調に進んでいるという認識でよろしいですか。

スポーツ計画課長：

はい。令和5年度につきましては当初の予定を概ね網羅して順調に進んでいると考えております。

水野委員：

そういう見解はとても素晴らしいなと思っています。評価からいけば、33%は金額的な問題であって、実際の事業そのものの達成度は100%ということですよ。ということは、正直に申し上げて、達成率の計算の仕方を工夫しないといけないというか、本来達成できているものというふうに認識すべき。

安価で済んでいるということは、プラスなので、達成率ということからいけば、これは表現の問題ではあるが、33%というのはいかがなものかと思います。

評価というのは非常に難しい。いろいろな指標を重ねてしていくことになるので、当初の計画以上に進んだものは、本来であれば120%とか、150%ということも出てきてもおかしくないわけです。

それが計画というものだし、実際にそのとおり進まないものもあると思います。ただ、今の社会では、達成率というのは、基本的に何らかの数値目標を持って実行したものの結果を数値として出すというのが原則なのでこのような数値になっていると思います。

実際、我々が何かをするときは、そういうものにとらわれすぎず、実際に進捗状況なり変化がどうなっているかということをもとらえた上で、数値的な評価としてはこうなっているというような評価をしていくことが現実的、本来あるべき姿かなというふうには思います。

数値で100%と言うのではなく、担当していただいている方が、どのような感覚で今おられるか、市川市の方の感覚としてはどうだけど、他の委員の方、立場から見たときにそれはどう見えているか、報告した内容がどのように感じられるか、実際に報告の内容で少し足りないところあるかというような視点で、委員の方々も見ていただきたい。

今回もご提案いただいているようなものもありますし、皆さんで審議して忌憚ない意見をいただく必要があると思います。

相田委員：

今水野委員がおっしゃったのは、数値目標としてある目標と、本来重ねるべき目的・目標に少し乖離があるのではというようなことですか。

水野委員：

スポーツ実施率の目標70%というのを決めた時点で、計画をそのまま進めていたら本当に70%になるのかということを委員の皆さんで議論してもらった経緯があるわけです。

その時も申し上げたが、その目標設定の仕方はなぜ70%にしたのかというと、これは県や国はその目標でやっているということが1つの前提だったんですね。

ただ、それを目標とするとその目標に向かった努力をしていかないといけない。ただ、達成率100%ということはとても素晴らしいことで、このままいってくれるといいと思っている。

例えば今回のアルコとイチコも、僕は審議会委員なので知っていますが、市民への周知率なども、目標設定して実施しているわけだから、それがゴールに向かっているかは、常に我々は見ておかないといけない。

理論的にはというか、現実的な問題としてどうかを、新しい委員が多くなられたので、市民や、客観的な立場の方々から意見を聞けるとありがたい。

相田委員：

先ほどお聞きしたのは、目標の70%は市民に対してじゃないですか。事業計画があって何年度計画とやっているときに、予算の執行を目標にしているような流れがあって、本来の目的と、計画に基づく執行との間にもう少し何かいい感じの折り合いがつけられないかということがないかなという話なのかと。

水野委員：

現場におられる方の率直な感覚を教えて欲しい。僕はこの計画をずっと見てるわけではないので、進捗報告を聞いたりして、いいことだなと思ったが、蓋を開けてみて10年後に37%を70%にするというのは結構大きなことで、施設の稼働の問題だとか、いろいろなものも変わらないといけない。

相田委員：

ここで言っている市民のスポーツ実施率は、市民本人がスポーツをしたという実施率じゃないですか。だがこの計画だと、「する・みる・ささえる・知る」という視点があるじゃないですか。

スポーツの実施率というところで、スポーツにかかわったと考えるのか、実際に運動したと考えるのかというところを見ると、さきほどの4つの視点から見た達成率があれば、合わせると70%を達成するのではないかということもあると考えたがそうではないんですね。

水野委員：

この目標では、実際にスポーツをする人を70%にしようということなんです。

山中委員：

数値目標を70%に持っていく調査は、3年に1回で、いろいろな事業を予算をかけてされているなかで、もう少し短い期間でそういう数値を確認した方がいいんじゃないかと思います。要はこういう方法で事業をしてスポーツする機会が増えた、減ったという確認を3年間やるわけですよ。

水野委員：

これだけではないですが、今年の計画は、去年の結果を踏まえて進んでいるので、それを積み重ねていけばそうなるだろうというもくろみで計画はされてるんですけども。

実際やってみた結果については、今年実際動いておられる方の実感や、ここに参加いただいている委員の方々の感覚を3年ではなくて毎年どこかでモニタリングして見ておかないと駄目なんじゃないかというのが僕の感覚です。

山中委員：

やはり3年間では少し長いのではないかな、要は、急にパッと最初は上がるかもしれないけれど、徐々に右肩上がりに、37%から上げるというのは10年で4、5%ずつ上がっていかないと、その目標には達成しないと思う。3年間事業を実施して、あまり変わらなかったという場合、次は7年間で37%上げるとなると、かなり厳しくなると思うんですよ。なのでいろいろな事業を実施されている中で、振り返り、事業変更の検討などはもっと短い期間でしたほうがいいのではないかと思います。

相田委員：

サンプリングはすごく大事だと思うんですけど、期間を短くすることになると、やはり手間とお金がかかると思う。一般的に、母体の傾向等を見るのに、母数を2000として無作為で調査すると、大体の傾向が見えてくるという統計学上の数値があるので、そういうことを考慮してサンプリングの数を減らすとか、やり方を変えとかして、お金と手間が少ないようにできる工夫があれば、可能になるかもしれないですよ。

水野委員：

具体的に何が動いていて、何が動いてないかとかいうのをモニターするっていうことが大事だと思うので、数値目標に対しての、動きっていうものをもう少しリアルタイムで見たいようなものがあったら、よりこの達成度と目標との間の乖離がないものになっていくのかもと思います。

相田委員：

サンプリングするのに、無作為でやるにしても相手の人が単純に参加者なのか、年齢や性別の項目も設けるのか、そのほかの様々な背景も含めたデータなのかで解析の仕方も変わってくると思う。

大変かもしれないですが、方法がもしあれば活用したら良いと思う。また、これは自分でも首にかかってきてしまうことだが、補助金を交付している団体へ事業報告の際に何らかの見返りとして、こういうデータを出して欲しいと言えば、市としては提出された数値を入れるだけで集計できる。そういう方法があると、うまくいかもしれないなと。ただ、それをやる側としては、大変ですよ。

もしそういうことをするとしても、できるだけお金を使わず、手間もかからないでできる方法があれば、スパンが短く、より相手の要望等の解析するデータが多い形でできて面白いかもしれないなと、思ったのだが余りにも無謀ですかね。

水野委員：

1年にするとしたらそれなりの、議論をしたり、方法を具体化していく必要がある。

ただ、予算化となると、前年度から計画を出さないといけないので工夫が必要と思うが、できるだけリアルな動きを皆さんが共有して、より良くなるにはどうしたらいいかということまで共有できるよう協力し合っていないといけないと思います。

相田委員：

あとは、進捗状況によって、計画の変更等も可能かと思います。

水野委員：

後で出てくる中学校の部活動地域移行で、うまくいっている自治体を視察に行ったときに、やはり一体化してるかどうかなんです。

市の職員の方、それから現場の方、それから学校の方が一体化して、情報共有しているし、お互いが自分でできることは何かということを真剣に大人が考えているわけです。

市川市は人口規模も組織も大きいという難しさはあるにしても、そういう動きが少しでもできていくとより良い成果、というのは市民の方々が少しでもスポーツを楽しめたり健康になったり、ということにつながっていくんじゃないかと思っています。

相田委員：

現実にスポーツ推進計画を実施する上での課題等があれば教えていただきたい。

スポーツ計画課長：

やはり水野会長からご指摘いただいているように市民のスポーツ実施率70%というのは大きな目標だと事務局でも感じています。

その中で指標にするものを市が持つアンケート機能等を利用して把握しようという考えですが、やはりサンプリングや費用の問題もあるので、インターネットを使った機能なども利用しつつ、補足資料としてデータをできる限り細かく集められる方法がないかと、お話を伺いながら考えていたところです。

今年が計画年度内の2年度目になるので、その進捗を見極めながらできる限り細かい推移を把握していきたいと考えています。

伊坪委員：

まだ読み込めてないときはあるかもしれないが、予算執行等の資料を見ながら1つ気になったのが、基本目標の情報収集です。これは今後行われるイベント等の情報収集ということでしょうか。

情報の発信はわかるのですが、情報の収集というのが、実際に実施したものに対する情報収集も含めると、先ほどの実施実態を把握するというのも情報収集かなというふうに思っています。

情報発信も、イベント等の事前周知がもちろん一番大きいところだと思うんですが、実際こういうイベントがあってどんなふうに行われましたということも1つかなというふうに思いました。

予定しているものを情報とおっしゃったのか、それとも実態等もこの情報の中に入っているのか確認したい。

スポーツ計画課長：

ありがとうございます。情報の収集については、市民の皆さんがスポーツに関する情報をどうやって収集しているのか、一方的に発信するだけでなく、市民へ届く手法をできるだけ選んで推進していきたいという思いがあります。

その中で、イベント予定の発信に合わせて、「する・みる」のきっかけになればということで、例えば、表敬訪問の情報、協定締結団体の取り組み等を発信しています。

今年度オリンピックパラリンピックがあり、市川市のゆかりの選手では、パラリンピック選手が2名メダルを獲得して、市民栄誉賞を受賞しておられます。

そういった方の情報を発信することによって、市民の皆さんにスポーツに関する興味をより持っていただければ、そして、同じ種目でなくてもスポーツに携わる、体を動かすきっかけになればということを考えています。

収集につきましては特にSNSの発信、情報通信機器を使った発信等の、情報の収集をどういうふうに行っているかという部分を把握していきたいと考えています。

水野委員：

それは個人のそういう情報収集の仕方を、市のスポーツ部門で把握しようとしているということですか。

スポーツ計画課長：

アンケート等を使い、例えば市のイベントをどういった手法で皆さんは受け取っているか、市の事業でなくともeスポーツに関する情報等をどういったツールで受け取っているか、そういったことを把握していきたいと考えています。

伊坪委員：

情報を発信していくための、情報収集というような形で考えたらいいということですね。

小幡委員：

情報の発信というのは、具体的にどのようなことをされているのでしょうか。市の事業でその情報が目に触れる手法はある程度限られてくると思いますが、他市では、コンシェルジュのような窓口があります。

市川市の一般市民が、何かスポーツをしたい、近くのスポーツイベントに行きたいというときに、どこでその情報が得られるのか知っている状態であればもっと参加率が上がると思います。

スポーツ計画課長：

市民の皆さんがどうやって、情報を集めているか、触れているかに関しては、この数値目標のグリーンの部分、市川市のスポーツイベントの周知率、情報収集のweb等の情報通信技術をどのように、どの程度利用しているのかという数字を把握していきたいという部分にも絡んでいます。

市川市が現在、情報発信するツールとしては、紙媒体の広報いちかわ、Webの広報いちかわ、SNS（フェイスブック、x、インスタグラム）等も行っています。

それ以外にも、チラシの配布、駅前のデジタルサイネージ設置等をしてはいますが、どういう発信手法が有効なのかを把握するのが課題であると考えているところです。

水野委員：

スポーツのイベントだけでなく、他のカテゴリーのイベントでもスポーツの情報も発信するような、スポーツをしている人たちだけでなく、関心がない人達にいかに関心を持ってもらうかが重要。

これは難しい問題ではありますが、声掛け、発信の仕方みたいなことを工夫していかないといけないんだらうと思います。

相田委員：

市から市民全体を対象として情報発信しているツールというのではないんですか。例えば防災情報の発信媒体だとか。

スポーツ計画課長：

発信のツールとしては、例えば、LINEの市川市のアカウント登録していただくと、そこからいろいろなイベントですとか、取り組みスポーツに限らず発信をします。

あとは興味のない人という部分に関連しまして、少し具体的な取り組みをご紹介します。それがNo30 健康いちかわ21というものです。

これは健康都市推進課が所管して進めています。庁内の横連携、健康に係る情報を共有しようという会議体です。高齢者のフレイル予防、健康づくりの取り組みをしている他部署があり、スポーツのイベントを紹介するということ、去年からではありますが進めています。

小幡委員：

全く運動しないことを引っ張るのは非常に困難で、時間も手間も資金もいりますが、週1回、月1回で実施している人を週2回、月2回にするほうが敷居は低いと思います。

そのどちらにも取り組むのですが、スポーツに興味があるがなかなかできないという人にとっては、予定が早めにわかることがきっかけになる。スポーツセンターは、1年間で大きな大会等も入っていて、市のイベント予定も入っている。そういう情報がホームページを見れば、カレンダーに掲載されていて、確定状況等がわかるようになっていけば、子供のいる家庭等でも関心をもち、月1回しか運動しない方が2回3回となるかもしれない。

チラシを配る労力は要りますけども、それほど資金はかからないと思います。学校でイベント一覧のようなものをあくまで予定として配ってもらうだけで子供とその親が関心を持たれるのではないのでしょうか。

相田委員：

1年間の予定だと、12月ぐらいに公共施設の予約を取る会議のようなものがあるはず。それで残ったところは、3ヶ月前からでないと予約ができない。大きなイベントなら1年前にはわかるかもしれないが、小さいものは、事前に伝えるのは難しいのでは。

小幡委員：

ただ「みんなでスポーツ」等を実施しているのが、前もってわかっているならば、秋の行楽のタイミングをずらしたのってというような意見を結構聞きます。市の事業については日程等確定してると思います。それだけでも公開してもらえるといいんじゃないかと思えます。

相田委員：

市民の人が市の施設を使用したいときに、スポーツ施設の予約システムならわかるが、一般の市民でシステムのログインIDやパスワードをもっていない人は見るところはないのでしょうか。

スポーツ計画課長：

施設ごとに予約の仕組みが異なることがあり、利用のしにくさについてのご意見を伺うこともあります。

その中で予約をできる権限を持つ方はシステムで見られるという施設があったり、逆にほぼ利用する方の条件が決まっているような施設は、月ごとの予定を公表して、把握するようなやり方だったり、スポーツ施設全般に統一された仕組みというのは、なかなか難しいところです。

スポーツ推進課長：

先ほど委員の皆さん方から出た意見で、スポーツをする人口をふやしていこうという大きな目標がある中で、スポーツを週1やってる人を週2にするよりも、全くやってない人をどうスポーツにかかわらせるかというのが大変だというお話があったかと思います。

そういった裾野を広げることに對して、スポーツ推進課では、年間を通じてスポーツフェスタ等のいろいろなイベントを実施しています。その周知の方法として、イベントカレンダーのようなものは製作して、とりあえず年間の予定を公開して決定次第、順次ページを更新しています。

市民の皆さんにもっとホームページの存在が知られていれば、このような話にならなかったかもしれないんですけども、それについては、我々のホームページ、そこにたどり着く動線が悪いのかなと反省するところですので、改善できればと思いました。

相田委員：

全部を市でやるのは大変なことになるのではと思います。各団体やスポーツを実施している人たちが、抱えている人達、団体に対しては、周知をするシステムを持っていると思うんです。

ホームページは、例えば市の方はそういった団体を全体的に見えとすれば、そこへのリンク貼るだけでも、大分違うと思うんです。そういう情報の出し方も悪くないんじゃないかと思いました。

スポーツ推進課長：

スポーツ協会にご協力いただいている市民スポーツ教室ではそのような方法でつなぐようにして、活用させていただいています。

相田委員：

他の団体でも、そういう方法が活用できれば良いと思います。ただ、そこでリンク先の人がミスをしてしまったり、行事が急遽中止になったり、そういう対応については決まり事をしっかりしておかないと後で問題になってしまうと思います。

水野委員：

その辺りも含めて、もう少し情報発信の仕方、先ほど言われたように情報の取り方がどうなってるかということ把握しながら、より効果的なものをねらっていくのが良いと思いますけども、他の議題もあるので、申し訳ありません、次の課題に行きたいと思います。

議案第2号 第2期 市川市スポーツ推進計画の進捗について 承認

次第2 報告

報告第1号 塩浜2丁目市有地活用事業について

報告第2号 学校部活動地域移行の進捗について

報告第3号 国府台公園野球場の名称について

スポーツ計画課 副参事：

報告第1号 塩浜2丁目市有地活用事業について

(前回報告内容の説明)

本事業はJR市川塩浜駅から徒歩数分圏内にある塩浜2丁目市有地の活用について事業を推進するものです。当該地は平成17年に策定した「塩浜地区まちづくり基本計画」で、「賑わいの場」として指定されています。一方、市北東部にある現市民プールは昭和57年から開業し、既に40年以上を経過し、施設の老朽化の課題を抱えているところです。

令和4年度、第2期 市川市スポーツ推進計画を策定する際に実施した市民アンケートにて、「健康意識」の高まりが見られる結果となったことを受け、現市民プールの再整備についてまとめている市川市北東部スポーツタウン基本構想の見直しを実施しました。

内容としては、北東部地域には健康を意識した施設（体育館、屋内プール、多目的グラウンド）を整理し、既存のレジャープールを市内全域で検討するものとなりました。

そこで、「賑わいの場」として指定されている塩浜2丁目市有地に移設ができないかを検討するため、民間事業者から意見を聴取する「サウンディング調査」を実施した結果、レジャープール移設の可能性が見出したという結果となりました。

(整備方針の策定)

サウンディング調査の結果を受け、レジャープール移設の可能性や賑わいの施設のアイデアを把握し、塩浜2丁目市有地を活用するための骨格として塩浜2丁目市有地整備方針（素案）を策定しました。これに対し、パブリックコメントにて「カーボンニュートラル」「ユニバーサルデザイン」「地域特性の考慮」について意見が寄せられたことから、施設整備全般に対する方針として追記し、整備方針を策定しました。

市有地活用の事業手法は、当該地を事業者に貸付け、事業者が施設を整備、運営・管理までを実施し、市有地の貸付として賃料を徴収する「定期借地権方式」を採用しました。

整備する内容については、造波プール、流水プール、ウォーター 슬라이ダー等のレジャープール機能の他、年間を通して賑わいある空間を創出することを予定しています。

(今後の対応内容)

今年度中に、定期借地権設定にかかる事業者を選定するところまでを目標としています。

事業者が決定した後は、事業者による設計・建設業務へと進み、令和9年の夏頃にレジャープールを開設するスケジュールを想定しています。

スポーツ計画課長：

報告第2号 学校部活動地域移行の進捗について

(経緯)

全国的な学校部活動の懸案事項として、少子化や教員への大きな負担等が課題として挙げられる中、国を挙げて学校部活動の地域移行を推進しています。

地域移行とは、学校生活の一部とみなされている部活動について、土日の活動部分を地域で活動している多様なスポーツ団体に移管することを指します。

地域移行によるメリットは、教員の負担が軽減すること、少子化により人数不足になりやすい団体競技の合同チーム化、専門性の高い競技指導を受けられることなどが挙げられます。

(全体スケジュール)

本市では教育委員会が主として計画を進めており、文部科学省や千葉県の指針(ガイドライン)を参考に、市立中学校における土日部活動の地域移行を段階的に進行する予定です。

(第四中学校のモデル事業)

まず今年度は実証事業として第四中学校エリアに「市川市東部総合型地域スポーツクラブ」を立ち上げ、第四中の陸上、サッカー、男子ソフトテニス、剣道、女子バスケの5つの部活動を地域クラブ化し、

移行を開始しました。

それぞれのクラブでは指導者として、他校の現役教員や教育委員会に出向している教員、部活動地域指導者として指導経験のある市民が、顧問に代わって指導を行っています。

(見えてきた課題等)

地域移行を開始してから見えてきた課題として、一つめに指導者確保の重要性があります。これは、指導者の都合がつかないとクラブ活動自体が出来なくなってしまい、指導者の責任が非常に大きくなってしまったため、部活動同様に複数人の指導者がいることが望ましいということ、二つめに未経験の会員が参加する際の体制づくりがあります。必要な用具を競技ごとに揃えておくことや、部活動参加者との習熟度が異なることから指導方法を整理する必要がある。三つめに費用負担に関する保護者への理解を深めてもらう重要性です。部活動とは異なり、専門の知識をもった指導者が指導にあたるなど、地域移行の目的やこれまでの部活動との違いをしっかりと理解してもらえないと、地域クラブ活動への登録者が伸び悩む結果となります。

これらの課題を踏まえて、持続可能な地域クラブ活動推進体制を構築しなければならないと感じています。

(本市が目指す地域移行の全体像)

本市が目指す地域移行の全体像ですが、土日の地域クラブ活動手法として、「指導者派遣」や「委託」方式を検討しています。

「指導者派遣」とは、既に各学校で活動している部活動のうち土日における活動をベースとし、競技経験・指導経験の豊富な指導者を各校に派遣するものです。「委託」とは、総合型地域スポーツクラブ等の土日のプログラムに中学生を受け入れてもらうよう、委託契約を締結して活動を実施するものを想定している。

クラブでの活動を希望する生徒や指導者は地域クラブ活動を管理する組織に会員登録し、その組織が指導者を希望する中学校への派遣用務や、総合型地域スポーツクラブに対し「地域クラブ活動」を業務委託する用務を担うことを想定しています。

指導者を派遣する方式の場合には、現状の部活動を地域クラブ活動として、移行することが可能であろうと考えられる他、委託をする方式の場合には、少人数の部活動などへの対応など、学校単位でなく、もう少し広いエリアを対象とした活動が可能になるものと考えています。

これらの全体像がまとめ次第、改めてご報告をさせていただきたいと考えています。

スポーツ推進課長：

報告第3号 国府台公園野球場の名称について

(国府台公園野球場の変遷)

昨年度の委員の皆さまには、令和5年度第2回の審議会において、野球場にネーミングライツ制度を導入するためのスケジュール等について報告したところですが、市として当面の間は、野球場に対してネーミングライツを実施せず、条例上に正式な施設名称を定める方向で準備を進めておりますことについてご報告します。

昭和25年、国府台公園内に野球場がオープンし、通称国府台球場と呼ばれていました。令和2年公園全体の再整備計画に伴い、先んじて、国府台球場の解体が開始されました。令和3年遺跡調査と並行して新野球場の建設を開始しました。令和7年3月の竣工に向け、現在、急ピッチで工事を進めているところです。

(施設の名称)

公共施設の名称は、通常施設の設置管理に関する条例を作り、その中で定めるものとなっております。しかしながら、国府台公園などの都市公園内においては、基本的には施設は、その公園の機能を充足するものとして、例えば公園のトイレ、ベンチ等に名前がないように、国府台公園野球場にも名前がついていませんでした。

そのため、我々が契約等をするときに名称が必要な場合には、通称名国府台球場という名前を使うことができず、国府台公園内野球場という名称を一応の正式名称として使っていました。

このように、これだけ大きな施設にきちんと決まった名前がないのは不便なことであることから、施設にふさわしい名前を決定し、条例に位置づける必要があると考えました。

命名するにあたってのポイントは2点あります。

国府台公園は、今から約1300年前、奈良平安時代に、下総の国の国府が置かれており、それに由来する国府台という地名を、地域資源として活用し、市川市が歴史ある町であることを市内外に発信できるように、施設の名前に、国府台という地名を冠することとします。

今回の整備にあたり動画再生も可能なLEDフルカラースコアボードも備え、野球だけではなく、式典やイベントにも活用できる施設として、関連施設を備えた屋外施設の総称として「スタジアム」とすることとしました。

以上のことより、施設の名称を国府台スタジアムと定め、次の市議会定例会において、条例改正望むところです。

(愛称について)

慣れ親しまれた方の国府台という通称名をベースとし、さらにグレードアップしたものとして国府台スタジアムと名付けました。この命名には、先ほど申し上げた2点の明確な意図があることから、他施設で行われているような市民公募による愛称募集、ネーミングライツも実施せずに、まずは市民による市民のための施設として、国府台スタジアムという名称を広く周知し、浸透させたいと考えています。

水野委員：

僕は「国府台スタジアム」という名称が個人的に嬉しいというか、国府台という名称が残ったらいいこと思っていたのですが、特に問題がないというのであれば、そのまま承認していただくということになる。承認というかもこれは報告ではありますが。その方向で進んでいくことが望ましいのかもしれないと思います。

他に質問事項がなければ、本日の議題は終了とします。

スポーツ計画課 主幹：

水野会長議事進行ありがとうございました。

では以上をもちまして、令和6年度第1回市川市スポーツ推進審議会を閉会いたします。皆様、長時間にわたりご審議ありがとうございました。

<閉会>